

佐藤材木店の山田社長（左から2人目）とカナコスキッチンの榎本さん（中央）



土曜日限定で営業する手作り焼き菓子店「カナコスキッチン」

材木店一角で菓子販売

上三川町 2社の要望をマッチング

週末のにぎわい創出へ

【上三川】上三川の老舗材木店「佐藤材木店」の一角にオープンした土曜日限定の手作り焼き菓子店「KANAKO'S Kitchen（カナコスキッチン）」が人気を博している。町が空き店舗の活用を促進する中、週末空

いている市街地の事務所と、借りたい焼き菓子店をマッチングさせた。町に縁のある異業種2社の熱い気持ちがあった結果で、中心市街地のにぎわいを取り戻す鍵になりそうだ。
（小野口愛梨）

町は中心市街地活性化事業として昨年7月、空き店舗に関する調査を実施。空き店舗で新事業を始めたい人は多いが、貸したい人は少ないという調査結果だったという。そんな中、週末に事務所を貸したい材木店と借りたい焼き菓子店が現れ、町は双方の意向を確認した上で引き合わせた。

店舗を貸し出した佐藤材木店は1933年創業で約90年の歴史を持つ。4代目の山田有美社長（57）は自身が会社を引き継いだことを機に事務所を改装。木工品の販売や事務所内のレンタルスペースの設置を通じて、町をより盛り上げようと考えた。山田さんは「普段材木店を訪れない人たち

カナコスキッチンの店主榎本加奈子さん（42）は自宅で営業していたが、店内や駐車場が狭く移転を考えていた。榎本さんは「以前はひと組のお客さんしか店内に入れられなかった。移転したことでイートインスペースができ、お客さんとの会話も増えた」と喜ぶ。開店したのは佐藤材木店

1階の一角。平日は同社事務所として営業し、土曜日は約40種類の焼き菓子などが並ぶ。季節の食材を使うため商品は毎週異なり、買い物客を楽しませている。町商工課の担当者も「これから開業したい人と、店舗を貸したい人を応援していきたい」と期待を込める。